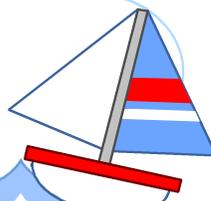


人権通信

2024年度 第1号

城/内中等教育学校 人権委員会・レベラーズ部



こんにちは、人権委員会です。蒸し暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか？

第1学期末考査も終わり、梅雨明けと夏休みが近づいてきましたね。

さて、今回は61・63ホームルームの人権委員と、レベラーズ部の皆さんに原稿を書いていただきました。

私は3年生の時の人権HRで、ハンセン病回復者の方が今まで経験してきたことについての番組を見ました。そこではじめて、ハンセン病回復者の方に対する差別について明確に知ったのですが、その時私はひどい嫌悪感や憤りを感じたことを覚えています。

今の日本では、かつてのハンセン病における隔離政策のように、感染症の患者の方をしいたげるようなものはありません。それでも新型コロナウイルス感染症が流行したときに、感染者に対して理不尽に嫌な目線を向ける人がいたように、差別や偏見がなくなったわけではありません。

このような差別を本当の意味でなくすためには、私たち一人一人が感染症に対する正しい知識と理解をもち、自分の発言や行動に責任をもつようにすることが不可欠だと考えます。

いじめは、他人の尊厳を傷つける重大な人権侵害です。

いじめられた側は一生治ることのない、深い傷を心に負いますが、いじめた側はその行為がどれほどの影響を及ぼすかをわかっていないことが多いです。

いじめをなくすには、私たち一人一人が周りの人の気持ちに寄り添い、思いやりを持つことが重要です。また、日常の中で他の人を尊重し、違いを受け入れることが求められます。私たちはともに手を取り合い、いじめのない社会を目指して努力していくべきです。

学校や社会も、いじめをなくすために、いじめを見逃さずいち早く対処することや、学校での人権教育に加え、実際にいじめの抑止につながるような実効性のある対策も必要ではないでしょうか。

こんにちは、レベラーズ部です。今回の人権通信ではレベラーズ部の活動について紹介させていただきます。

最初に4校交流・共同学習についてです。これは、4校(ひのみね支援・小松島・小松島西・城/内)の生徒がひのみね支援学校に集まり、美術作品を制作したり、ゲームやパラスポーツをして交流するものです。去年は7月に共同で美術作品の制作を行い、12月にはゲームやクリスマスプレゼントの交換をしました。障がいのある方に対する理解が深まるだけでなく、ひのみね支援学校・小松島高校・小松島西高校の生徒の皆さんとの交流することができ、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

次は「中・高生等による人権交流集会」についてです。これは、県内の中高生が集まって、人権について考え、語り合う会です。去年は12月に徳島県教育会館で開催され、林家染太さんによる人権落語の後、中・南・西の各ブロックに分かれて分科会が行われました。中部ブロックでは「いじめ」をテーマとし、中部だけでなく南部・西部の中高生とも意見を交わし、交流を深めました。今年はレベラーズ部員に加え、部員以外からもスタッフとして多くの生徒が参加してくれています。生徒の皆さんの大会への参加をお待ちしています。

最後に、子ども食堂ボランティアについてです。レベラーズ部はクレール子ども食堂とぽかぽか食堂にボランティアとして参加しています。クレール子ども食堂は毎月第4土曜日、ぽかぽか食堂は毎週木曜日の夕方に開催していますが、そのうち都合のつくときに参加しています。子ども食堂ボランティアに参加することで、かわいい子どもとふれあうとともに、子ども食堂が子どものためだけでなく、親にとってもほっと一息つけたり、他の人たちとつながれる場所であるという、子ども食堂の意義についても知ることができました。

このほかにも文化祭での人権展やフードドライブなどの活動もしています。興味のある方は、ぜひ一度部会に来てみてください。お待ちしております。

61・63ホームルームの人権委員、及びレベラーズ部の皆さんの意見はどうでしたか？

この機会に、ご家族で人権問題について考えたり、話したりしてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

